

トキエア株式会社 代表取締役 CEO はせがわまさき 長谷川 政樹 氏

新潟空港を拠点に各地の空へ。 地域航空で新潟の活性化に貢献する



PROFILE

1967年生まれ、加茂市出身。日本航空、新潟県庁、ジェットスター・ジャパン、三菱重工を経て現職。日本航空では日本のフルサービス航空（FSC）事業を、ジェットスター・ジャパンでは創業期にジェネラル・マネージャーとして従事し、外資系ローコスト航空（LCC）事業を学ぶ。国内・外資系航空会社、航空機メーカー（三菱航空機）での経験を通じ、外資系と日本企業との長所を融合した最適ソリューションを提案。また官民での業務経験を活かし、規制緩和等に関わる調整経験が豊富。新潟県・新潟空港活性化検討アドバイザーも務める。

2023年春から新潟～札幌（丘珠）線を皮切りに、仙台、中部、神戸への定期便就航を計画している地域航空会社・トキエア。新潟空港を拠点とし、地元に密着しながら交流人口の拡大や地域経済の活性化を目指す長谷川代表に、お話を伺いました。



トキエア株式会社

〒950-0078

新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル11F

<https://toki-air.com/>

子どもたちが気軽に飛行機に乗って、日本各地に行けるようにしたい。外に出ていろいろな刺激を受けることが勉強になると思います

行きたいときに、行きたいところへ。 地域航空会社の夢を新潟で実現

トキエアは新潟空港を拠点にした地域航空会社として、2020年7月に設立された。「飛行機はまだまだ運賃が高く、頻繁に乗ることができません。私は以前LCCの会社で経営を勉強しましたが、新しいマネジメントでコストを抑えれば地方でも新規需要の開拓ができるのではないか。何より子どもたちに気軽に飛行機に乗ってほしい。それを新潟で実現したいと思いました」と語る長谷川代表。コロナ禍での出発だったが、各方面への事業説明や国との規制緩和の調整、最大の課題である資金調達など、さまざまな壁を乗り越えてきた。「航空会社はスタート時点で大きな資金が必要になります。そこで商工会議所さんのサポートをはじめ、新潟県、金融機関、経済界の方々から出資や融資をいただき感謝しています」。

拠点化ならでの利便性、 コスト削減でチャーター便も手軽に

国際線も運航する既存のLCCは機体にジェット機を使用しているが、トキエアは国内線に絞り、プロペラ機を使用。ジェット機よりも空港使用にかかる着陸料が大幅に安くなるため、コスト削減に繋がる。また、旅客数の増減に対応するため、座席の一部を貨物スペースに変更できる機能「カーゴ・フレックス」を、日本の航空会社で初めて導入。旅客と貨物を効率的に運ぶことで収益力を強化する。

「朝の始発便で目的地に行き、夜の最終便で戻れることも新潟に拠点があるメリット。また、定期便だけでなくチャーター便の運航もしやすくなります。当社の機体は70人乗りで、バスなら2台分。70人集まれば、通常往復にかかる運賃の片道分でチャーターできる場合もあります」。



フランスを出発したトキエアの初号機ATR72-600が11月5日、新潟空港に到着。長谷川代表とパイロットが対面した。尾翼にデザインされたロゴ「TOKI」の「i」は、先端が赤い朱鷺のくちばしをイメージしているという。

新潟県民とともにアイデアを出し 地方創生を目指したい

今後は人材の確保、育成も重要な課題となるが、業務のオンライン化やスタッフの生活スタイルに合わせた勤務体系などを構築し、「まずこの会社に入りたいて思ってもらうことが必要。その上で地方創生について一生懸命考えられる人に来てほしい」と語る。「航空会社があることで海外企業との接点も増えてきますし、航空に携わりたい人が全国から新潟に集まってくることもあるでしょう。これからも新潟のみなさんと一緒にアイデアを出しながら、世界に向けて発信していきたいと思います」。

11月5日には新潟空港にトキエアの初号機ATR72-600が到着。11月30日にはAOC（航空運送事業許可）を国土交通省東京航空局に申請し、受理された。2023年春以降、定期便の就航が、さらに新潟商工会議所によるチャーター便第一号の運航も予定されるなど、いよいよ本格的に始動するトキエア。新潟県民の期待を力に変えながら、地方創生の夢を叶えていく。

